

パラリンピックの 「教育的意義」とは

東京大学准教授 星加良司

【編集部】

いろいろな懸念がありながらも閉会した東京オリンピック・パラリンピック。これから総括がなされなければなりません。教育に関しては、パラリンピックの「教育的意義」という言葉が聞かれました。そう言われて一般に思い浮かぶのは、「障害があっても夢を実現できる姿に子どもが感動すること」「障害を乗り越える姿を見て、自分もがんばろうと思えること」でしょうか。しかし、その「教育的意義」は果たして本当に実現されるのでしょうか。そもそもそれが、これからの社会を生きる子どもたちにとって「教育的意義」があることなのでしょいか——障害学が専門で、ご自身も全盲でいらつしやる星加先生にお話をうかがいました。

東京オリパラの総括

▼パラリンピックの伝え方

——スポーツ観戦が趣味だそうですが、東京オリパラはどうご覧になりましたか。
はい、そうですね。

東京オリンピック（五輪）は、競技によって文化の違いが鮮明に表れたのが印象的でした。近年、五輪は競技種目の多様化が進んでいます。今回はサーフィンやスケートボードなどこれまでとはまた文化が異なる競技種目が採用されました。

日本国民は五輪が好きですから、それがアスリートにさまざまなものを背負わせることになっていきますね。とくに伝統的な五輪競技にかかわっている方々のマインドにも根強く影響しています。このあたり、今後変わっていかねばならないところもあると思います。

——パラリンピックの報道のされ方について
はいかがでしょうか。

一つのスポーツイベントとして放送時間が非常に長くなり、変化の兆しを感じます。伝え方についても、もちろん五輪とは別の特徴もあるので一概には言えませんが、スポーツ